



クルマの安全ガイド



三菱自動車工業株式会社

三菱自動車お客様相談センター

0120-324-860

オープン時間 9:30~12:30、13:30~17:00

※050~で始まる番号など、一部の IP 電話からはつながらない場合がございます。

目次

【出発前に】

フロアマットが原因で、クルマが止まらない？！	1
シートベルトをしないと致死率が着用者の約 14 倍に！	2
[SRS エアバッグで身を守るために] シートベルトを着用し正しい姿勢で乗車を！	3
車内につけたアクセサリーが原因で火災など思わぬ事故に！	5

【運転するとき】

警告灯が点灯・点滅！クルマに異常発生サイン！	6
予防安全技術[e-Assist]の 過信は禁物！	7
[オートストップ&ゴー(AS&G)] アイドリングストップしたまま車外に出ると危険！	8
[電気自動車・プラグインハイブリッドEV] 静かで気付かれにくい？ ガソリン車と違う特長が！	11
[ABS 作動中] ブレーキペダルをしっかりと踏み、危険回避を！	12
冠水路の走行はダメ！ 浸水・冠水すると火災のおそれも！	13
[AT 車 セレクターレバー] 「D」のままバックするとエンストする？！	14
[AT 車 セレクターレバー] 停止前に「P」に入れると故障の原因に！	16
[AT 車 セレクターレバー] エンジンスイッチを押してすぐにセレクターレバーを操作するとエンジンがかからない！？	17
[ツインクラッチ SST シフトレバー] 「R」点滅時のアクセル操作は急発進のおそれが！	18
[MT 車 シフトレバー] 停止前に「R」に入れると故障の原因に！	19

【装備を使用するとき】

[スライドドア] はさみ込み、引き込まれにご注意！	20
[テールゲート(バックドア)] 接触やはさみ込みにご注意！	22
[パワーウィンドウ] 手や首のはさみ込みにご注意！	23
[キーレスオペレーションシステム] キーを忘れると再始動できず、思わぬトラブルに！	24
アシストグリップが外れて、転倒？！	25
シガレットライターが飛び出す？ ソケット破損にご注意！	26

【点検・整備・取り扱い】

[点検・整備・洗車時] やけどや巻き込みなど思わぬケガにご注意！	27
[セルフスタンドでの給油] 吹きこぼれや引火にご注意！	28
[タイヤ交換] サイズが異なると火災の危険が！	30
[電気自動車・プラグインハイブリッドEV] 取り扱いを誤ると 感電などのおそれが！	31
[ジャッキアップ] 正しく使用しないと重大な事故のおそれが！	32
[電装品] 不適切な取り付けは火災のもと！	33

【お子さまをのせるとき】

車外に投げ出される可能性も！ チャイルドシートはしっかり固定を！	34
[チャイルドシート固定機構] シートベルトで窒息のおそれが！	36
お子さまのウィンドウ、ドア操作は危険！ ロックスイッチを活用！	37
お子さまを車内に残さないで！ 熱中症など命の危険が！	38

出発前に

フロアマットが原因で、クルマが止まらない？！

フロアマットはしっかり固定していますか？
フロアマットの重ね敷きも、絶対にダメ！
思わぬ事故につながるおそれがある。



クルマにあわないフロアマットの使用や、 フロアマットの重ね敷きは絶対におやめください。

クルマにあわないフロアマットの使用やフロアマットの重ね敷きは、使用しているうちにフロアマットがずれ、アクセルペダルを押したり、フロアマットが丸まりブレーキペダルの下に入りペダルを踏みまきることができなくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



しっかり固定する

POINT 01

クルマに合ったものを使用し、 しっかりと固定する。

フロアマットはアクセルやブレーキ操作のさまたげにならないようクルマにあったものを使い、ずれないように確実に固定してください。フロアマットが丸まりブレーキペダルの下に入るとペダルを踏みまきることができなくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。



重ね敷きしない

POINT 02

重ね敷きは、絶対にしない。

2重、3重に敷くと上部のフロアマットがずれて、アクセルペダルを押してしまうことがあります。絶対に重ね敷きしないでください。



取り付け注意！

POINT 03

アクセルペダルへの ペダルプレート装着に注意。

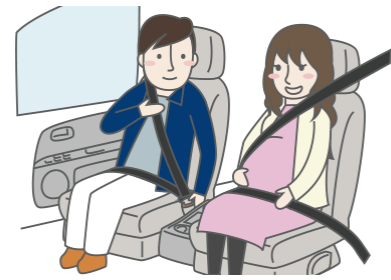
アクセルペダルにスポーツタイプ等のペダルプレートを取り付ける際は、周辺部品と干渉しないように取り付けしてください。アクセルペダルにペダルプレートを重ねて取り付ける場合、ペダルプレートのはみ出しや取り付け状態によってはフロアマット等と干渉するおそれがあります。

出発前に

シートベルトをしないと 致死率が着用者の約 14 倍に！

「ちょっとそこまでだから」「子供が苦しがるから」と、シートベルトをしないことはありませんか？ 非着用者の致死率は着用者の約 14 倍*とのデータも！シートベルト着用は義務です。

※警視庁交通局「平成 24 年度中の交通事故発生状況」



クルマに乗る時は必ずシートベルトを着用してください。

シートベルトを着用しないと急ブレーキをかけた時や衝突した時などには、大きな荷重がかかり、車外に投げ出されるなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。全員、必ずシートベルトを正しく着用してください。

For Safety

安全のポイント



シートベルトを必ず着用

POINT 01

全員がシートベルトを着用する。

シートベルトを着用しないと急ブレーキをかけた時や衝突した時などに体がシートに保持されず、車外に投げ出されたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

また、SRS エアバッグが装備されていても、SRS エアバッグだけでは衝突時に体を受け止めることはできない上に、SRS エアバッグが膨らむ強い衝撃で命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグはシートベルトに代わるものでなく、シートベルトと合わせて頭や胸がハンドルなどに直接ぶつかるのを防ぎます。

シートベルトは必ず着用してください。小さなお子さまはチャイルドシートを必ず使用してください。



正しく着用する

POINT 02

シートベルトは正しく着用する。

シートベルトを着用する際は、以下のように着用してください。

- ・状態を起こしてシートに深く座り、シートを正しい位置に調整する。
- ・肩ベルトは確実に肩を通し、あごや首に掛からないように調整する。
- ・腰ベルトは、腰骨のできるだけ低い位置にかける。
- ・肩や腰ベルトがねじれていないか確認し、プレートをバックルにカチッと音がするまではめ込む。



資料提供：JAF「後席シートベルト非着用の危険性」

POINT 03

後席もシートベルトを着用する。

2008年6月から前席に加えて後席もシートベルトの着用が義務化されました。後席でシートベルトを着用していないと、急ブレーキをかけた時や衝突した時などに前席の背もたれに激しくぶつかり、本人だけでなく、前席の人までも負傷させてしまうおそれがあります。

後席でも必ずシートベルトを着用してください。



妊娠中も着用する

POINT 04

妊娠中も着用する。

妊娠中もシートベルトを着用してください。肩ベルトは確実に肩を通り、腹部を避けて胸の間からわき腹に通し、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。

ご自身で運転する場合は、腹部とハンドルの間に適度な隙間ができるようシートの位置を調整してください。腹部とハンドルの位置が近すぎると運転しにくいばかりでなく、万が一衝突した場合、ハンドルで強打するおそれがあります。

着用にあたっては、医師にご相談の上、注意事項を確認してからご使用ください。

出発前に

[SRS エアバッグで身を守るために] シートベルトを着用し 正しい姿勢で乗車を！

SRS エアバッグがあるのでシートベルトを着用しなくても安全だと思っていないませんか？シートベルトを正しく着用してはじめて、SRS エアバッグの効果が発揮されます。



SRS エアバッグの効果を発揮させるため、 シートベルトを着用し、正しい姿勢で乗車してください。

SRS エアバッグはシートベルトだけでは防ぎきれない重大な傷害が発生するよう強い衝撃を受けた時に作動し、頭部や胸部への衝撃を和らげる装置です。必ずシートベルトを着用し、正しい姿勢で乗車してください。

For Safety

安全のポイント

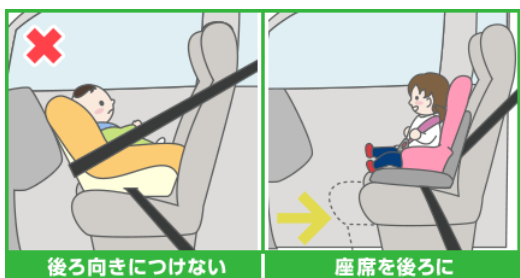


資料提供：(独)自動車事故対策機構 NASVA
JNCAP「自動車アセスメント アウトランダー衝突試験」

POINT 01

SRS エアバッグの衝撃回避のため シートベルトを着用する！

SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。シートベルトをしていないと急ブレーキなどで身体が前方へ投げ出され、その時に SRS エアバッグが膨らむとその強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



後ろ向きにつけない

座席を後ろに

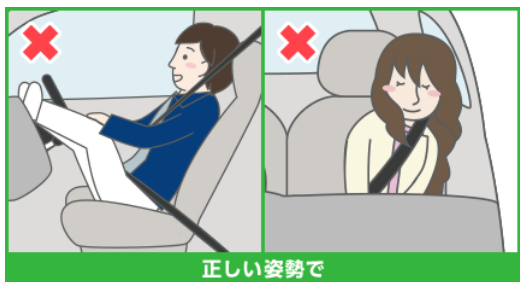
POINT 02

助手席には後ろ向きのチャイルド シートは絶対に取り付けない。

助手席に乳児用（ベビーシート）など、後ろ向き装着のチャイルドシートは、絶対に取り付けないください。

助手席 SRS エアバッグ装着車の場合、SRS エアバッグが膨らむ時に強い力が、後ろ向きチャイルドシートの上部にかかり、背もたれに押しつけられ、命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

やむをえず、助手席に前向きのチャイルドシートを取り付ける場合は、SRS エアバッグから遠ざけるため、助手席を一番後ろの位置にしてください。



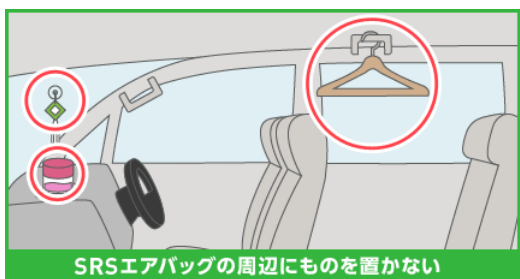
正しい姿勢で

POINT 03

正しい姿勢で乗車する。

SRS エアバッグは非常に速いスピードで膨らむため SRS エアバッグ格納部に手や足、顔を近づけたり、もたれかかるような姿勢で座らないようにしてください。

SRS エアバッグとの接触により擦り傷や打撲、命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトを着用して正しい姿勢で乗車してください。



SRSエアバッグの周辺にもものを置かない

POINT 04

SRS エアバッグ周辺にもものを置かない。

SRS エアバッグ周辺にもものを置いたり、アクセサリなどを取り付けると、SRS エアバッグが膨らむ時に、アクセサリなどが飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。また、SRS エアバッグが正常に膨らむのをさまたげるおそれがあるため、ステッカーなどは貼り付けないください。



作動条件をチェック

POINT 05

SRS エアバッグの作動条件を理解する。

運転席・助手席 SRS エアバッグ、運転席 SRS ニーエアバッグは、約 25km/h 以上の速度でコンクリートのような固い壁に正面から衝突した時に作動します。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンエアバッグは、強い衝撃を車両側面から受けた時に作動します。衝突した位置や角度、衝突したものの形状や状態などによって SRS エアバッグは作動しないことがあります。

詳しくは取扱説明書をご確認ください。



作動後は触らない

POINT 06

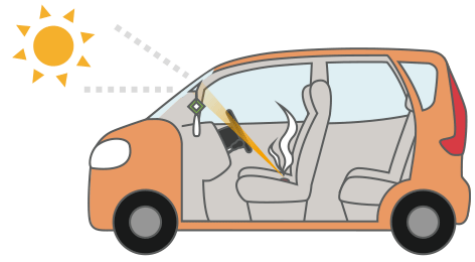
SRS エアバッグが作動したら、触らない。

SRS エアバッグ作動時には大きな音がし、白煙が出ますが、火災ではありません。SRS エアバッグの作動直後は SRS エアバッグ構成部品やその周辺が高温になるため、触らないよう気をつけてください。なお、白煙は人体への影響はありません。

出発前に

車内につけたアクセサリーが原因で 火災など思わぬ事故に！

運転のさまたげになる位置にアクセサリーを取り付けていませんか？
アクセサリーが原因で火災になることも。



**ウインドウガラスやインストルメントパネルに、
アクセサリーは取り付けしないでください。**

ガラスやインストルメントパネルにアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、アクセサリーの吸盤や芳香剤の容器がレンズの働きをして火災など思わぬ事故の原因となります。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

**ガラスやインストルメントパネルに
アクセサリーを取り付けない。**

ウインドウガラスにアクセサリーを取り付けたり、インストルメントパネルの上に芳香剤などを置かないでください。また、ウインドウによってはアクセサリーなどを取り付けると法令違反となりますので、ご注意ください。



POINT 02

**インストルメントパネルの上に
ものを置かない。**

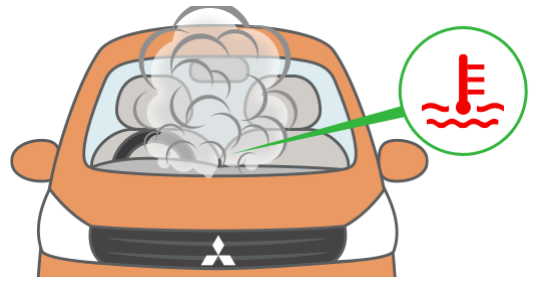
SRS エアバッグ付車の場合、SRS エアバッグが膨らむ時に、アクセサリーなどが飛んで重大な傷害を受けるおそれがありますので、インストルメントパネルの上にものを置かないでください。

また、SRS エアバッグが正常に膨らむのをさまたげるおそれがあるため、ステッカーなどを貼り付けしないでください。

運転するとき

警告灯が点灯・点滅！ クルマに異常発生サイン！

警告灯が点灯・点滅したら、クルマにいつもと違う何らかの問題が発生しています。
必要な処置をしないと、クルマが壊れたり、装置が正しく作動せず、
重大な事故につながるおそれがあります。

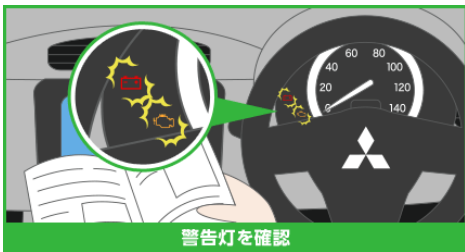


**警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に
すみやかに停車するなどして処置を実施してください。**

警告灯の点灯・点滅は、クルマに異常が発生していることを知らせています。そのままの状態で使用し続けると、故障したり、事故の時に重大な傷害を受けたりするおそれがありますので、点灯・点滅している警告灯を確認し、必要な処置を実施してください。

For Safety

安全のポイント



警告灯を確認

POINT 01

警告灯が点灯・点滅したら、 必要な処置を実施する。

警告灯が点灯・点滅したまま使用し続けると、警告している個所が故障したり、事故の時に重大な傷害を受けたりするおそれがあります。
安全な場所にすみやかに停車するなどして点灯・点滅している警告灯を確認し、必要な処置を実施してください。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

[主な警告灯]

①充電警告灯

充電システムに異常がある場合に点灯します。安全な場所に停車し、最寄りの販売会社へ連絡してください。

②ブレーキ警告灯

ブレーキ液の不足やブレーキ力配分機能に異常がある場合に点灯します。
駐車ブレーキを解除しても消えない場合は、安全な場所に停車し、最寄りの販売会社へ連絡してください。

③SRS エアバッグ/プリテンショナー機構警告灯

SRS エアバッグやプリテンショナーに異常がある場合に点灯します。
最寄りの販売会社へ連絡してください。

④エンジン警告灯

エンジンやトランスミッションに異常がある場合に点灯または点滅します。
最寄りの販売会社で点検を受けてください。

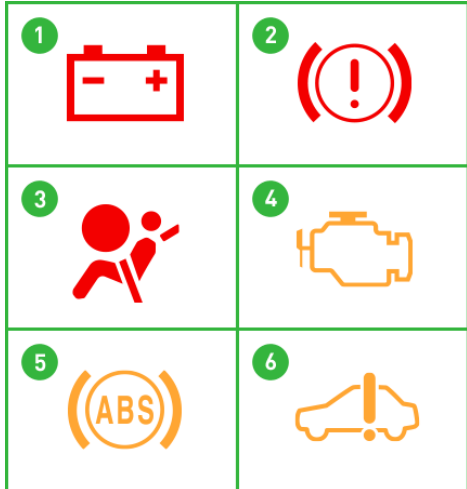
⑤ABS 警告灯

ABS に異常がある場合に点灯します。急ブレーキや高速走行を避け、安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
再度エンジンをかけ、その後しばらく走行しても再点灯しなければ異常ありませんが、消灯しない時やたびたび点灯する時は、できるだけ早く販売会社で点検を受けてください。

⑥パワーユニット警告灯（プラグインハイブリッドEVシステム警告灯）

電気自動車、プラグインハイブリッドEVのEVシステムに異常がある場合に点灯します。ただちに安全な場所に停車し、最寄りの販売会社へ連絡してください。

お使いのクルマによって警告灯の種類が異なります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

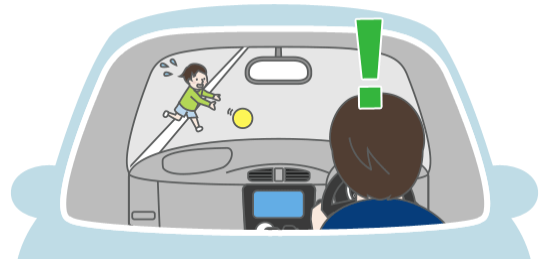


運転するとき

予防安全技術[e-Assist]の過信は禁物！

事故の危険を検知して、被害を予防・回避・軽減できる先進の予防安全技術[e-Assist]。

しかし、交通、天候、道路状況によっては、正しく検出できないことも。



[e-Assist]を過信せず、交通・天候・道路状況に合った安全な運転を心がけてください。

[e-Assist]は、事故の危険を検知してドライバーに知らせることで、被害の予防・回避・軽減をサポートし、できる限り事故被害を減らすための、先進の予防安全技術。しかし、交通、天候、道路状況によっては、正常に作動しないことがあるので、システムに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

交通・天候・道路状況に合った安全な運転を心がける。

予防安全技術[e-Assist]は、交通、天候、道路状況によっては、正常に作動しないことがあるので、このシステムに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。また、[e-Assist]の[FCM]、[FCM-City]、[ACC]は、前方車両に対して、誤発進抑制機能は前方車両や壁に対して、作動するよう設計されています。いずれの機能も二輪車や歩行者などに対しては作動しません。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

- ・ 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]
- ・ 低車速域衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM-City]

前方車両をレーダーにより認識し、衝突の危険がある時は、警報や自動ブレーキで衝突を回避、または被害軽減しますが、条件によってその効果は変化し、常に同じ性能が発揮できるわけではありません。衝突の危険がある時は、システムの作動の有無に関わらず、ブレーキペダルを強く踏むなどの回避操作を行ってください。

- ・ 車線逸脱警報システム [LDW]

脇見運転などによるクルマのふらつきに効果的ですが、車線（白線、黄線）がかすれたり、汚れたりして見えにくい時の環境下では車線を検出できない場合があります。

- ・ レーダークルーズコントロールシステム [ACC]

高速道路の長距離渋滞時など、発進・停止を頻繁に繰り返す状況などで運転操作の負担を軽減することができますが、道路状況によっては実際の状況を正確に検出できないことがあります。

また、前方車両が急ブレーキをかけた時や他車が割り込んだ時などは十分な減速ができず、前方車両に接近することがあります。

システムを過信して注意を怠ったり、誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがありますので、必要に応じて安全を確保してください。

- ・ 誤発進抑制機能

前方車両や障害物をレーダーにより認識し、ペダルの踏み間違いと判断した場合は、エンジン出力を抑制して急な発進を防止しますが、網目状のフェンスやガラスの壁面（ガラスドア/ショーウィンドウ）など、障害物の種類によっては作動しません。

また、ブレーキをかけて車両を停止させる機能はありません。システムに頼った運転はせず、アクセル操作には十分注意し運転してください。

運転するとき

[オートストップ&ゴー (AS&G)]

アイドリングストップしたまま 車外に出ると危険！

オートストップ&ゴー (AS&G) は、停車中に自動でエンジンオフするエコな機能！しかし、アイドリングストップ中に車外に出るなど、取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがある。



アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、 運転席のドアを開けたりしないでください。

アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けたりして車外に出ようとする時、エンジンが自動再始動する車両とエンジンの自動再始動が無効になる車両があります。車両に応じた動作を理解しないと、思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず注意事項を守ってください。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

アイドリングストップ中に運転席の シートベルトを外したり、 運転席のドアを開けたりしない。

アイドリングストップ中に車外へ出る時は、安全のために、必ずセレクターレバーを「P」に入れ、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチをオフにしてください。アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けたりした時の動作は、車種や年式によって異なりますので、あらかじめ取扱説明書もしくは、対象車台番号一覧表でご確認ください。



[シートベルトを外したり、ドアを開けたりすると、自動再始動する車両]

アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けるとエンジンが自動的に再始動するため、クリープ現象で車両が動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けたりする際はセレクターレバーを「P」に入れ、駐車ブレーキをかけるなど車両が動き出さないようにしてください。





[シートベルトを外し、ドアを開けると、自動再始動が無効になる車両]

アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外し、運転席のドアを開けて車外に出ようとする、メーター内のAS&G表示灯が点滅し、警告ブザーが鳴ります。この状態になると、エンジンの自動再始動が無効になり、再始動操作※1を行ってもエンジンは自動再始動しません。

再びエンジンを始動させる場合は、セレクターレバーを「P」に入れ、エンジンスイッチやキーを操作して、手動でエンジンを始動させてください。

自動再始動が無効になると、「ブレーキが効きにくい」「ハンドルが回しにくい」状態になり、坂道などでは車両が動き出して、思わぬ事故につながるおそれがありますので、十分ご注意ください。

※1 ブレーキを離す、ハンドルを操作する、エアコンを操作するなど。



対象車台番号一覧表

アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けたりして車外に出ようすると、「自動再始動する車両」と「自動再始動が無効になる車両」があります。お客様のお車がいずれかの動作にするかは、車台番号でご確認いただけます。

車種	アイドリングストップ中に車外へ出ようすると	
	自動再始動する車両	自動再始動が無効になる車両
RVR	GA4W-0400101～	GA4W-0100101～0302453
ギャランフォルティス	CY6A-0400201～	CY6A-0000201～0301267
ギャランフォルティススポーツバック	CX6A-0400201～	CX6A-0000201～0300599
デリカD:5	CV2W-1000101～	CV2W-0700101～0903492
デリカD:2	MB15S-0510001～(※2)	対象無し
ミラージュ	A03A-0032656、0032787～ A05A-0032657、0032659、 A05A-0032791～	A05A-0000201～0032655、 A05A-0032660～0032779
アウトランダー	GF7W-0300101～ GF8W-0300101～	GF7W-0000101～0100527 GF8W-0000101～0101599
eK ワゴン/eK カスタム	全車	対象無し
eK スペース/eK スペースカスタム	全車	対象無し

※2 これより以前に生産された車両は、アイドリングストップ中に運転席のシートベルトを外したり、運転席のドアを開けたりしても、通常のアイドリングストップが継続されます。

POINT 02

アイドリングストップ中に エンジンフードは開けない。

アイドリングストップ中にエンジンフードを開けると、AS&G 表示灯が点滅し、警告ブザーが鳴ります。この状態になると、エンジンフードを閉めて再始動操作を行っても、エンジンは自動再始動しませんのでご注意ください。再びエンジンを始動させる場合は、セレクターレバーを「P」に入れ、エンジンスイッチやキーを操作して手動でエンジンを始動させてください。



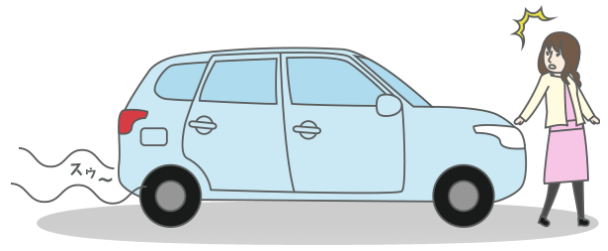
アイドリングストップ中はエンジンフードを開けない

運転するとき

[電気自動車・プラグインハイブリッドEV]

静かで気付かれにくい？ ガソリン車と違う特長が！

電気自動車やプラグインハイブリッドEVのほとんどの装備や機能はガソリン車と同じですが、一部異なる仕様があり、理解しないと、思わぬトラブルにつながるおそれがあります。



走行音が小さいことや、回生ブレーキの効きの 変化などの特長を理解してください。

基本的にはガソリン車と同じように使用できますが、走行音が小さいことや、駆動用バッテリーやモーターを搭載していることなど、ガソリン車と異なる点があります。特長を理解し快適にご使用ください。

For Safety

安全のポイント



静かで気付きにくい

POINT 01

EV 走行時は歩行者に十分注意。

EV 走行時は、とても静かなので、低速時^{*}、歩行者などにクルマの接近を知らせるための車両接近通報装置が装着されています。車両接近通報装置が鳴っていても、歩行者が車両の接近や発進に気付かずに、事故が発生して重大な傷害または死亡につながるおそれがありますので、歩行者には特に注意してください。

^{*}電気自動車は車速が約 25km/h 以下、プラグインハイブリッドEV は約 35km/h 以下の時。

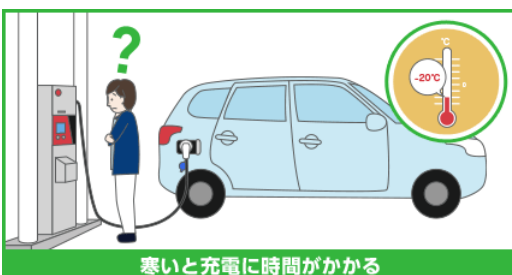


適宜、フットブレーキを使う

POINT 02

回生ブレーキの効きは 満充電に近いと低下する。

ガソリン車のエンジンブレーキに相当する回生ブレーキは、駆動用バッテリーが満充電に近いほど効きが弱くなり、満充電時には効かなくなります。この場合もフットブレーキは効きますので、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどしてください。なお、充電量が減ると、回生ブレーキは効くようになります。



寒いと充電に時間がかかる

POINT 03

極寒時は、暖房が効きづらい。 充電に時間がかかる。

外気温が低い時は、暖房性能が不足する場合があります。また、暖房の使用により航続可能距離がいちじるしく短くなります。外気温が約-15°C以下の時は、モーター出力が制限されたり、回生ブレーキ力が低下したり、充電時間が延びる場合があります。外気温が約-25°C以下の非常に寒い時は、駆動用バッテリーが凍結し、充電や電動システムの起動ができない場合があります。

運転するとき

[ABS 作動中]

ブレーキペダルを しっかり踏み、危険回避を！

ABSは、ブレーキ操作中にタイヤがロックすることを防ぎ、ハンドル操作で危険を回避する装置。ABSを確実に効かせるためには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けることが重要。



！ ABS 作動中はしっかりとブレーキペダルを踏み続けてください。

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、ブレーキペダルを踏んだ時に車輪がロックするのを防ぎ、ブレーキ制動力を維持しながら、車体姿勢とハンドル操作性を保つ装置です。ABSを確実に効かせるためには、しっかりとブレーキペダルを踏み続けてください。

For Safety

安全のポイント



ブレーキをしっかりと踏む

POINT 01

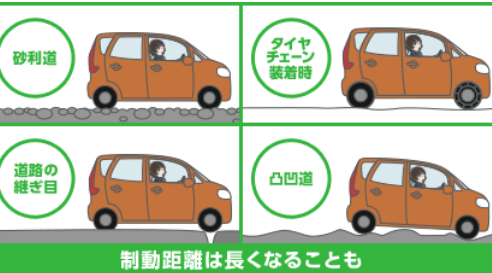
ブレーキペダルをしっかりと踏み続ける。

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、急ブレーキや滑りやすい道路でブレーキを踏んだ時に車輪がロックするのを防ぎ、ブレーキ制動力を維持しながら、車体姿勢とハンドル操作性を保つ装置です。ABSを確実に効かせるためには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS作動中は、ハンドルやブレーキペダルに振動を感じたり、ABSの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルが固く感じるがありますが、異常ではありません。



ハンドル操作で危険回避



制動距離は長くなることも

POINT 02

制動距離が短くなるとはかぎらない。

ABSは、ブレーキ操作中の車体安定性を確保するための装置です。必ずしも制動距離が短くなるとはかぎりません。ABSを過信せず、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

つぎのような場合は、ABSの付いていないクルマに比べて制動距離が長くなる場合があります。

- ・砂利道や深い新雪路を走行する時
- ・タイヤチェーンを装着している時
- ・道路の継ぎ目や段差を乗り越える時
- ・凸凹道などの悪路を走行する時



ABS警告灯が点灯してもブレーキは効く

POINT 03

ABS 警告灯が点灯していても 普通のブレーキは効く。

ABS警告灯が点灯した状況では、ABSは作動しませんが、普通のブレーキは効きます。急ブレーキや高速走行を避け、すみやかに安全な場所にクルマを止めてください。

エンジンを停止し、再度エンジンをかけます。その後しばらく走行してABS警告灯が再点灯しなければ異常はありませんが、しばらく走行しても消えない時は、販売会社で点検を受けてください。

運転するとき

冠水路の走行はダメ！

浸水・冠水すると火災のおそれも！

クルマが浸水・冠水すると、エンジン破損など重大な故障につながります。
また、海水に浸かると車両火災が発生するおそれがあります。

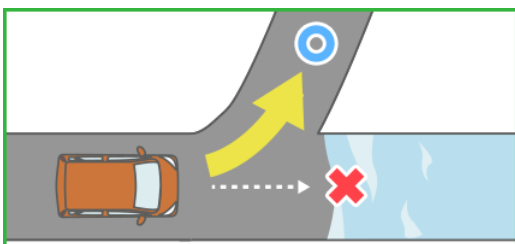


冠水した道路は走行しないでください。大雨などでクルマが浸水・冠水した時は、すみやかに販売会社に連絡してください。

冠水した道路や深い水たまりなどは、走行するとエンスト、電装品のショート、エンジン破損など故障の原因になります。また、海水による浸水・冠水の場合、海水には電気を通す性質があるため、電気系統のショートにより車両火災が発生するおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



冠水時は迂回する

POINT 01

冠水した道路は走行しない！

冠水した道路や深い水たまりなどは、走行しないでください。
エンスト、電装品のショート、エンジン破損など故障の原因になります。

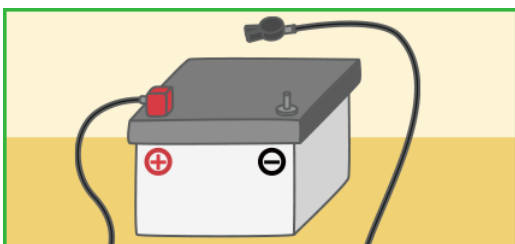


エンジンはかけない

POINT 02

クルマが浸水・冠水したら、販売会社にすぐ連絡を！

大雨などで、クルマが浸水・冠水してしまった時は、すみやかに販売会社で点検を受けてください。たとえ水が引いても絶対にエンジンをかけないでください。電気自動車、プラグインハイブリッドEVは、システムを起動しないでください。



マイナス端子を外す

POINT 03

ガソリン車はバッテリーのマイナス端子を外す。

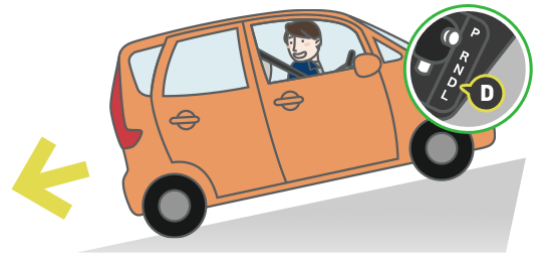
クルマが浸水・冠水してしまった時は、バッテリー端子のマイナス側を外してください。特に海水による浸水・冠水の場合、海水には電気を通す性質があるため、電気系統のショートにより車両火災が発生するおそれがあります。なお、端子を外す前に、必ずエンジンスイッチを切ってください。

運転するとき

[AT車 セレクターレバー]

「D」のままバックすると エンストする？！

上り坂の途中で、少しだけバックしたい時、セレクターレバーを「D」にしたまま、ブレーキを離したことはありませんか？進行方向とセレクターレバーの位置が違うと、突然エンジンが止まってしまうことも。



！ セレクターレバーは進行方向に合った 正しい位置で使用してください。

上り坂で、セレクターレバーを前進の位置（「D」、「Ds」など）にしたままブレーキを離して後退したり、下り坂で後退の位置「R」にしたままブレーキを離して前進すると、突然エンジンが止まってしまうことがあります。エンストすると、ブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

出発前にセレクターレバーの 位置を確認する。

クルマを動かす前には必ず進みたい方向と、セレクターレバーの位置が合っていることを確認してください。



POINT 02

進行方向に合ったシフトを必ず選択する。

上り坂で、前進の位置（「D」、「Ds」など）にしたままブレーキを離して後退したり、下り坂で、後退の位置「R」にしたままブレーキを離して前進しないでください。突然エンジンが止まってしまうことがあります。

エンストすると、ブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。





POINT 03

**走行中にエンストした場合、
通常よりブレーキペダルを強く踏み続ける。**

エンストすると、ブレーキの倍力装置が働かなくなるため、ブレーキの効きが非常に悪くなります。通常よりブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルから足を離し、再び踏み直すと、ブレーキの効きが悪くなります。

また、ハンドルは、パワーステアリング装置が働かなくなるため、非常に重くなります。通常よりハンドルを強く操作してください。

運転するとき

[AT車 セレクターレバー]

停止前に「P」に入 入ると故障の原因に！

完全にクルマが止まる前にシフト操作すると、急停車し、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



**クルマが完全に停止したことを確認してから
セレクターレバーを「P」に入れてください。**

クルマが完全に停止する前にセレクターレバーを「P」に入ると急停車し、思わぬ事故や、トランスミッションの故障につながるおそれがあります。トランスミッションが故障すると、パーキングブレーキをかけ忘れて坂道に駐車した場合、クルマが動き出すなど重大な事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

**クルマが完全に停止してから
セレクターレバーを「P」に入れる。**

クルマが完全に停止する前にセレクターレバーを「P」に入ると急停車し、思わぬ事故や、トランスミッションの故障につながるおそれがあります。



POINT 02

**駐車する時には必ず
パーキングブレーキをかける。**

トランスミッションが故障すると、パーキングブレーキをかけ忘れて坂道に駐車した場合にクルマが動き出すなど、重大な事故につながるおそれがあります。

運転するとき

[AT車 セレクターレバー]

エンジンスイッチを押してすぐに セレクターレバーを操作すると エンジンがかからない!?

エンジンが完全にかかる前にセレクターレバーを操作すると
スターターモーターが停止し、エンジンがかからないおそれがある。



! エンジンが完全にかかったことを確認してから セレクターレバーの操作を行ってください。

エンジンが完全にかかる前にセレクターレバーを操作すると、スターターモーターが停止し、エンジンがかからないおそれがあります。

坂道だと、ブレーキを離れた時点でクルマは動き始めますが、エンスト状態なのでブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



エンジンがかけながらセレクターレバーを操作しない

POINT 01

エンジンをかけながら セレクターレバーの操作を行わないでください。

エンジンが完全にかかる前にセレクターレバーを操作すると、飛び出し防止のためスターターモーターが停止し、エンジンがかからないおそれがあります。気温が低い場合など、エンジンが完全にかかるまでの時間が伸びる場合もあります。

エンジンをかける際はエンジン警告灯(🚗)や充電警告灯(🔋)も確認し、エンジンが完全にかかるまではセレクターレバーの操作を行わないでください。



エンジンがかかってからセレクターレバーを操作

POINT 02

エンジンがかかったことをしっかり 確認してからセレクターレバーを 操作してください。

エンジンが正常に始動するとエンジン警告灯(🚗)や充電警告灯(🔋)が消灯します。エンジンがかかったことをしっかり確認してからセレクターレバーを操作してください。

運転するとき

[ツインクラッチ SST シフトレバー]

「R」点滅時のアクセル操作は急発進のおそれがある！

ツインクラッチ SST は、メーター内のシフト位置表示「R」が点滅している時にアクセル操作をすると非常に危険！アクセルを踏み込んだ後にギヤが結合すると、急発進するなどのおそれがある。

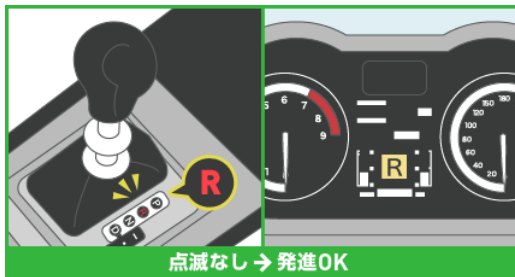


！シフト位置表示が点滅している時は、アクセルペダルを踏み込まない。

ランサーエボリューションなど一部車種のトランスミッション「ツインクラッチ SST」は、ギヤ切り替えを油圧制御で行っているため、シフトレバーを「R」に入れてもトランスミッションの内部のギヤが結合せず、発進できないことがあります。ギヤが結合していないままで、アクセルを踏み込むと、その後にギヤが結合した時に、クルマが急発進するおそれがあるため、必ずシフト位置表示を確認してからアクセルペダルを操作してください。

For Safety

安全のポイント



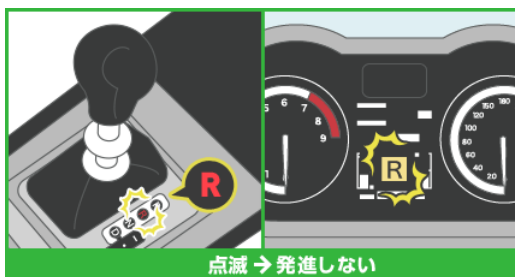
点滅なし → 発進OK

POINT 01

シフトレバーを「R」に入れたら点滅と警報ブザーを確認する。

ツインクラッチ SST はリバースギヤ（後退）が結合していない場合、シフトレバー部および、マルチインフォメーションディスプレイのシフト位置表示が点滅し、通常の後退ブザーよりも短い間隔の警告ブザーが鳴ります。

シフト位置表示が点滅していないことを確認し、アクセルペダルを操作してください。



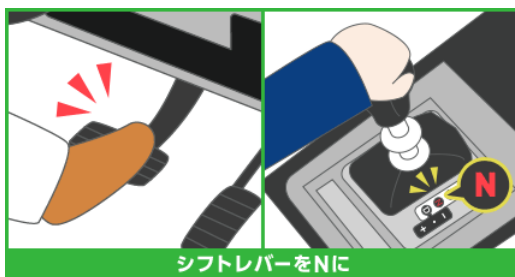
点滅 → 発進しない

POINT 02

点滅と警報ブザーが鳴ったらアクセルペダルを踏まない。

シフト位置表示が点滅し、ブザーが通常より短い間隔で鳴っている時は、ブレーキペダルを踏み込んだままにし、絶対にアクセルペダルを踏み込まないでください。

アクセルペダルを踏み込んだ状態でギヤが結合するとクルマが急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



シフトレバーをNに

POINT 03

点滅と警報ブザーが鳴ったらブレーキを踏み、シフトレバーを「N」にする。

シフト位置表示が点滅した時は、ブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを「N」に入れ、再度シフトレバーを「R」に入れ直してください。シフト位置表示の点滅が止まり、ブザーが通常の間隔に戻ったら、アクセルペダルを操作してください。

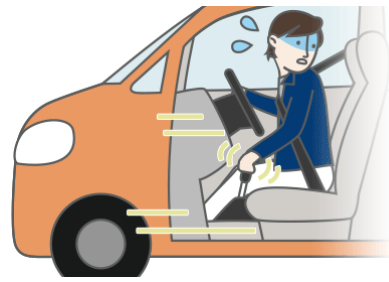
1回の操作で、シフト位置表示の点滅が止まらない場合は、この操作を繰り返してください。

運転するとき

[MT車 シフトレバー]

停止前に「R」に入れると 故障の原因に！

マニュアル車を運転中、急いで車庫入れしている時など、まだ前進しているのに、シフトレバーを「R」に動かすことはありませんか？あわてて操作すると、故障の原因になるおそれがあります。



**シフトレバーを「R（リバース）」に入れる時は、
クルマが完全に停止してから、
クラッチペダルをしっかりと踏み込んでください。**

クルマが完全に停止する前やクラッチペダルを踏んだ後すぐに「R（リバース）」にシフトレバーを入れるとギヤがかみ合わず、ギヤ鳴り音が発生することがあり、マニュアルトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



停車後クラッチをしっかりと踏む

POINT 01

**シフトレバーを「R」に入れる際は、
クルマを完全に停止させ、
クラッチペダルを踏み込んで操作する。**

クルマが完全に停止する前やクラッチペダルを踏んだ後すぐに「R（リバース）」にシフトレバーを入れるとギヤ鳴り音が発生することがあり、マニュアルトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

コルト ラリーアート version - R は、クラッチペダルを踏み込んでから約3秒後にシフトレバーを操作してください。

装備を使用するとき

[スライドドア]

はさみ込み、引き込まれにご注意！

乗り降りしやすい便利なスライドドア。注意して開閉しないと、手や指などをはさんだり、引き込まれたりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

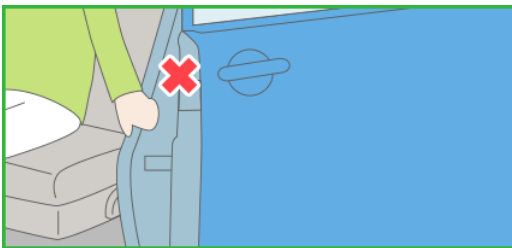


スライドドアを開閉する時は、手や指のはさみ込みや引き込まれなど十分ご注意ください。

スライドドアの開閉時に注意をおこたると、手や指などをはさみ込むなど、重大な事故につながるおそれがあります。開閉時はスライドドアのまわりの安全を確認して、大人が操作してください。

For Safety

安全のポイント



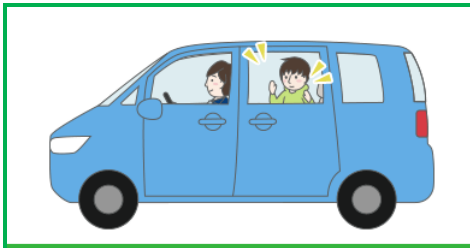
開閉時、ドア周囲を確認

POINT 01

開閉時は周囲をよく確認して、大人が操作する。

スライドドアはお子さまに開閉操作をさせないでください。手や指などをはさみ、重大な事故につながるおそれがあります。

スライドドアを開閉する時は、まわりに人がいないことを確認して、大人が操作してください。

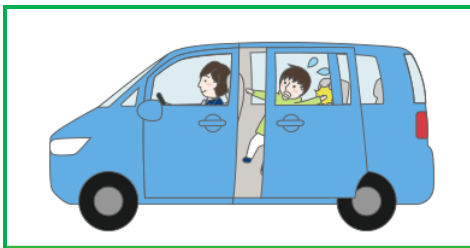


ドアに手をついていると

POINT 02

同乗者がドアから離れていることを確認する。

スライドドアを開ける時に、室内からスライドドアに寄りかかったり、手を付いたりしていると、開くドアに引きずられ、特にお子さまの場合には、車体とドアの間に頭や体が引き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



引きずられて



ケガをするおそれが

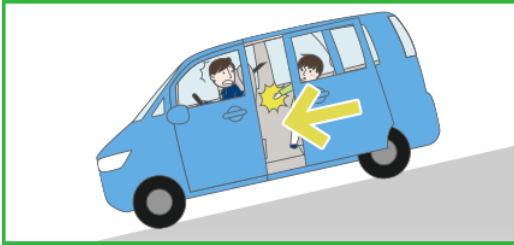


閉まっていることを確認

POINT 03

ドアが閉まっていることを確認する。

走行前には、スライドドアが確実に閉まっていることを確認してください。
走行中に開くと乗員や荷物が車外に放り出され、重大事故につながるおそれがあります。

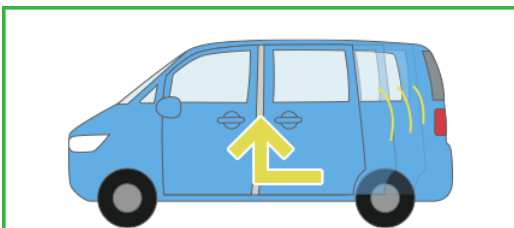


固定されていないと…

POINT 04

ドアを確実に固定する。

坂道など傾斜のある場所でドアを開けている時は、ドアが確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、突然ドアが閉まり、重大な事故につながるおそれがあります。



はさみ込みに注意

POINT 05

はさみこみ事故に注意。

イージークローザー（アクティブパワーロック）は、スライドドアを確実に閉めるための装置で、少し開いた位置から自動的に作動します。そのため、半ドア状態で指をかけると、イージークローザーにより、指などはさむおそれがあります。この機能を知らない方を同乗させる時は、指などはさまないよう注意してください。
また、電動スライドドアの場合、閉め切り直前ではセーフティ機構※が働かないようになっていますので、注意してください。

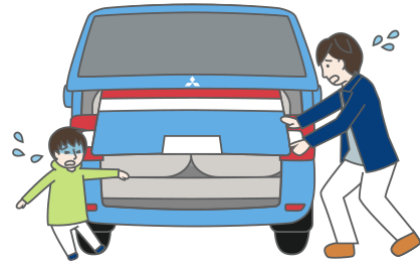
※セーフティ機構とは、電動スライドドア開閉時に人やものに当たったことを検知すると、電動スライドドアが動いている方向と反対方向に動きます。

装備を使用するとき

[テールゲート（バックドア）]

接触やはさみ込みにご注意ください！

テールゲート開閉時に注意をおこたると、
テールゲートにぶついたり、手をはさみ込むおそれがあります。



テールゲートを開閉する時は、ぶついたり手をはさまないように安全に十分ご注意ください。

テールゲートを開閉する時は、まわりをよく確認してください。開ける時は人やものにぶつからないように、閉める時は頭をぶついたり、手や首などをはさまないように注意をしてください。また、走行中にテールゲートが開かないように、確実に閉じていることを確認してください。

For Safety

安全のポイント

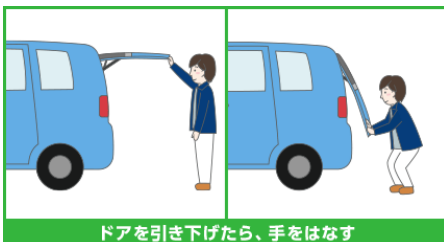


障害物を取り除く

POINT 01

開閉時は周囲をよく確認する。

テールゲートを開閉する時は、まわりに人がいないことを確認してください。また、電動式テールゲート（電動式のテールゲート）開閉時は、大人が操作してください。電動式テールゲートは、障害物を感知したり、雪が積もった時などは確実に開閉できないことがあります。開閉前にはそれらを取り除いてください。



ドアを引き下げたら、手をはなす

POINT 02

開閉時のはさみ込みに注意。

テールゲートの取っ手に手をかけたままテールゲートを閉じないでください。手や腕をはさみ、けがをするおそれがあります。テールゲートを途中まで引き下げたら、手をはなしてテールゲートを軽く押しつけてください。



ガススプリングに手をかけない

POINT 03

ガススプリングに手をかけて閉めない。

ガススプリングに手をかけてテールゲートを閉めたり、押ししたり、ぶら下がったりしないでください。手をはさんだり、ガススプリングの支点がはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ひもを巻きつけたり、ものをかけたりもしないでください。ガススプリングが作動不良になるおそれがあります。



閉まっていることを確認

POINT 04

テールゲートを閉めたら必ず確認。

走行前には、必ずテールゲートが確実に閉じていることを確認してください。開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒になったり、走行中に開くと荷物が落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

装備を使用するとき
[パワーウィンドウ]

手や首のはさみ込みにご注意ください！

お子さまにパワーウィンドウを操作させていませんか？誤って手や首をはさむと重大な事故になるおそれがあります。



！ パワーウィンドウ・サンルーフを開閉する時は安全に十分ご注意ください。

パワーウィンドウやサンルーフを閉じる時には、大きな力が作用しているため、万一手や首をはさんだ場合、重大な事故につながるおそれがあります。開閉操作は周囲をよく確認して、大人が操作してください。

For Safety

安全のポイント



まわりを確認

POINT 01

開閉時は周囲をよく確認して、大人が操作する。

パワーウィンドウ・サンルーフの開閉操作は安全のため、大人が行い、お子さまには操作させないでください。

閉める時は、お子さまや同乗者が窓から顔や手などを出していないかを確認し、操作してください。



ロックスイッチON!

POINT 02

窓の開閉のロックスイッチをONにする。

ロックスイッチ付きクルマの場合、お子さまを同乗させる時は、お子さまが操作できないようにロックスイッチをONにしてください。



直前はセーフティ機構は動かない

POINT 03

セーフティ機構付きは、閉めきり直前に注意。

セーフティ機構付き※であっても、窓を確実に閉めるため、閉めきり直前などはセーフティ機構が動きません。指などをはさまないように十分注意してください。

※セーフティ機構とは、はさまれ防止機構のことで、ガラスを閉める時にはさみ込みを感知すると、安全のため自動的にガラスが数 cm 開きます。



顔や手を出さない

POINT 04

窓・サンルーフから顔や手を出さない。

開閉時以外も、走行中は窓・サンルーフから顔や手を絶対に出さないでください。特にお子さまが同乗している時は注意してください。

装備を使用するとき

[キーレスオペレーションシステム]

キーを忘れると再始動できず、 思わぬトラブルに！

キーレスオペレーションキーを車外に持ち出したことに気がつかずに、走行すると……。キーレスオペレーションキーがないので、再始動できず困ったことに！



！ キーレスオペレーションキーは必ず運転者が携帯し、 エンジン始動中は車外に持ち出さないでください。

エンジンをかけた後に、同乗者がキーレスオペレーションキーを持ち去ったり、キーレスオペレーションキーを自宅などに置き忘れたりした場合、キーレスオペレーションキーが無いと、再度エンジンをかけることやドアの施錠・解錠ができませんのでご注意ください。

For Safety

安全のポイント



運転中



キーを持ち出す



そのまま運転



エンジンオフ



キーがなくて再始動できない

POINT 01

エンジンがかかっている時に、 キーレスオペレーションキーを 持ち出さない。

キーレスオペレーションキーは必ず運転者が携帯し、エンジンがかかっている時は車外に持ち出さないでください。

エンジンスイッチが「LOCK」以外の位置にある時※、ドアを開けてキーレスオペレーションキーを車外に持ち出した時はメーター表示とブザーで警告します。キーレスオペレーションキーが無いと、再度エンジンをかけることやドアの施錠・解錠ができません。

※電気自動車、プラグインハイブリッドEVは、パワースイッチON時。

装備を使用するとき

アシストグリップが 外れて、転倒？！

アシストグリップに手をかけて乗り降りしていませんか？

アシストグリップは、走行中に体を支えるためのもの。体重がかかり、万が一外れると思わぬ事故につながるおそれがある！

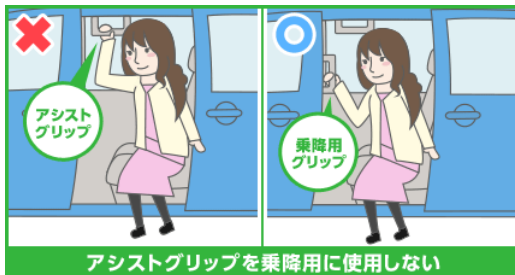


アシストグリップは乗降時に、使用しないでください。

アシストグリップは、座った状態で体を支えるために使用するものです。乗降時につかむと体重がアシストグリップに直接かかり、万が一、外れた場合に思わぬ事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

アシストグリップを乗降用に使用しない。

アシストグリップは、走行中など座った状態で体を支えるために使用するものです。乗降用ではありませんので、アシストグリップに手をかけて乗り降りしないでください。万が一、外れた場合に思わぬ事故につながるおそれがあります。乗り降りする時は、アシストグリップではなく必ず乗降用グリップ※を使用してください。

※乗降用グリップは装備されていない車種があります。



POINT 02

アシストグリップやコートフックには ハンガーなど硬いものを取り付けたりしない。

SRS カーテンエアバッグ装着車の場合、アシストグリップやコートフックにかけたものが原因で、エアバッグが正常に膨らむのをさまたげたり、膨らむ時にこれらのものが飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。

装備を使用するとき

シガレットライターが飛び出す？ ソケット破損にご注意！

純正品以外の電気製品を使うと、ソケットが破損するおそれがあります。
ソケットが破損すると、シガレットライターが飛び出すことも。



！ シガレットライターを使用する時は、 安全のため充分ご注意ください！

三菱純正品以外の電気製品をソケットにいれると、ソケットが損傷するおそれがあります。ソケットが損傷した状態でシガレットライターを使用すると、シガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま戻らなくなるおそれがありますのでご注意ください。

For Safety

安全のポイント



純正品以外は使用しない

POINT 01

三菱純正品以外の電気製品を ソケットにいれない。

ソケットが損傷する原因となりますので、三菱純正品以外の電気製品をソケットに差し込まないでください。

ソケットが損傷した状態でシガレットライターを使用すると、シガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま戻らなくなるおそれがあります。



放置しない

POINT 02

ソケットから外したまま放置しない。

シガレットライターをソケットから外したまま放置しないでください。

ソケットにゴミや金属片などの異物が入ると火災やショートの原因となるおそれがあります。



ノブを持つ

POINT 03

シガレットライターは必ずノブを持つ。

シガレットライターを持つ時は、熱している部分やその付近には触らず、ノブを持ってご使用ください。



他のクルマの部品は使用しない

POINT 04

他のクルマのシガレットライターを使用しない。

他のクルマのシガレットライターを使用すると、故障や過熱による火災を招くおそれがあります。また、シガレットライター押さえつけたままにしたり、シガレットライターの改造などもおやめください。

点検・整備・取り扱い

[点検・整備・洗車時]

やけどや巻き込みなど 思わぬケガにご注意！

クルマを良い状態で使うには日ごろのメンテナンスが大事！

しかし、走ったあとにすぐエンジンルームを点検すると、熱かったり、ファンが回っていたりして危険。やけどや巻き込まれなどケガをするおそれがある。



**走行後すぐにエンジンルームの点検・整備はしない、
洗車時も手袋をつけてケガ対策をしてください。**

エンジンルームの中に、むやみに手を入れると手や衣服がベルトなどに巻き込まれたり、やけどをするおそれがありますのでご注意ください。

For Safety

安全のポイント



手を入れない

POINT 01

むやみにエンジンルームに手を入れない。

エンジン回転中のエンジンルームに手を入れると、ドライブベルトや冷却ファンなどに手や衣服を巻き込まれるおそれがあります。冷却ファンはクルマによってエンジンを止めていても作動することがありますのでご注意ください。

また、電気自動車やプラグインハイブリッドEVの場合、高電圧を発生する部品および高電圧の配線（オレンジ色）やそのコネクターの取り外し、分解などは絶対に行わないでください。感電など、命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。



やけどに注意

POINT 02

エンジンルームの点検・整備時は やけどに注意。

エンジンルーム内の部品には高温になるものがあります。やけどをするおそれがありますので、各部が十分に冷えるのを待ってから点検してください。冷却水が熱い時は、ラジエーターキャップを外すと蒸気や熱湯が噴き出しやけどをするおそれがありますので、ラジエーターキャップは外さないでください。



気をつけて

POINT 03

下回り清掃時は 手にけがをしないよう注意。

下回りやホイールを洗う時は厚手のゴム手袋などを装着して、手にけがをしないように注意してください。

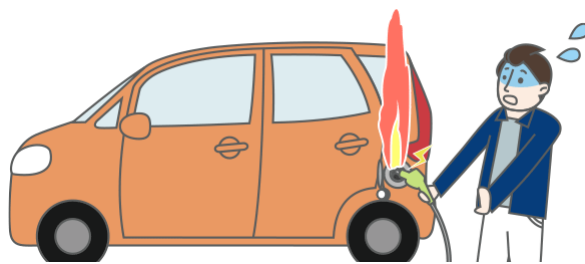
点検・整備・取り扱い

[セルフスタンドでの給油]

吹きこぼれや引火にご注意！

セルフスタンドの給油には注意が必要。

火気厳禁はもちろん、一人で給油しないと燃料が静電気に引火し、火災や爆発のおそれがある。

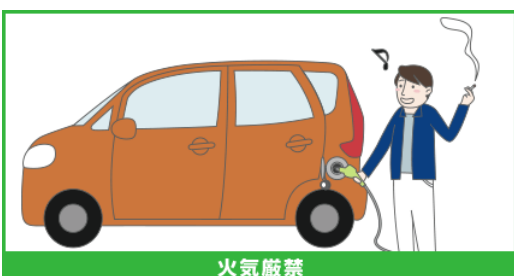


**給油作業は一人で行い、もちろん火気厳禁！
静電気による引火や吹きこぼれにご注意ください。**

身体に静電気が帯電したまま給油すると、火災や爆発のおそれがありますのでご注意ください。また、継ぎ足し給油による吹きこぼれにもご注意ください。

For Safety

安全のポイント



火気厳禁

POINT 01

火気厳禁！給油時はエンジンを止める！

給油する時は火気厳禁です。燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。必ずエンジンを止めてください。

また、タバコやライターなどの火気も厳禁です。



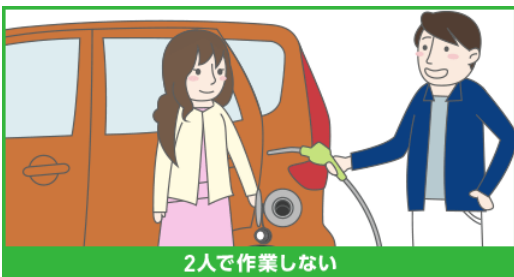
静電気を除去する

POINT 02

給油する前に静電気を除去する。

静電気を帯びていると放電による火花で気化した燃料に引火するおそれがあります。セルフスタンドに備え付けの静電気除去シートやクルマのボディなどの金属部分に触れ、身体に帯電した静電気を確実に取り除いてください。

また、プラグインハイブリッドEVの場合、給油と充電を同時に行わないでください。充電に伴う動作で静電気を帯びた場合、放電による火花で気化した燃料に引火するおそれがあります。



2人で作業しない

POINT 03

給油作業は一人で行う。

複数で給油を行うと他の人が帯電していた場合、気化した燃料に引火するおそれがあります。給油作業は一人で行ってください。

給油が終わるまで補給口から離れないでください。

途中、シートに座るなどすると、再帯電するおそれがあります。



ノズルはしっかり入れる

POINT 04

給油ノズルはしっかり給油口に入れる。

給油ノズルは確実に挿入し、給油が自動的に停止したら、給油を終了してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料が吹きこぼれる場合があります。

燃料をクルマにこぼすと塗装の変色、シミ、ひび割れの原因になります。

正しく給油できない場合は、スタンド係員を呼び、指示に従ってください。

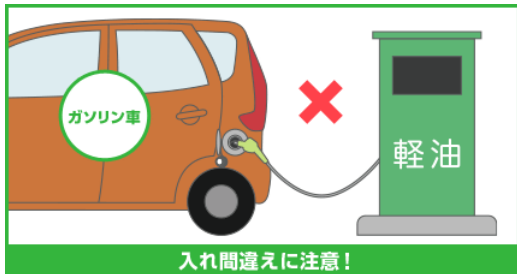


POINT 05

フューエルキャップを閉める時は、 クルマの取扱説明書の手順どおりに。

異物が噛み込んでいないことを確認し、フューエルキャップが燃料補給口に対してまっすぐな状態でゆっくりと回し、確実に閉めてください。

フューエルキャップが斜めの状態で無理に閉めると、フューエルキャップや燃料補給口が破損したり、燃料が漏れる可能性があります。フューエルキャップが斜めになっている場合は、無理に閉めず、必ずまっすぐな状態で確実に閉めてください。



POINT 06

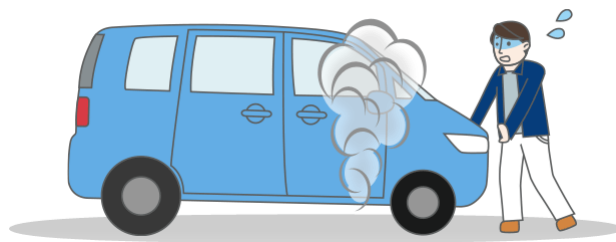
燃料の入れ間違えに注意！

ガソリン車にはガソリン、ディーゼル車には軽油を入れてください。燃料を間違えると、エンジンが壊れたり、走行中に突然エンストするなどして事故の原因となるおそれがあります。

特に、軽自動車に誤って軽油を入れてしまうトラブルが発生しています。

サイズが異なると火災の危険が！

指定サイズのタイヤを使用していますか？指定サイズ以外のタイヤを使用したり、異なるタイヤを混ぜて使用すると安全走行できず、最悪の場合、発熱による火災の危険性が。



必ずクルマに合った指定サイズのタイヤに交換してください。

異なった銘柄やパターン、サイズのタイヤを混ぜて装着すると、安全走行に悪影響をおよぼしたり、ディファレンシャルなどに大きな負担がかかり、発熱による火災の危険性もありますのでご注意ください。

For Safety

安全のポイント



POINT 01

指定サイズのタイヤを使用する。

指定サイズ以外のタイヤを使用したり、指定サイズであっても銘柄やパターンの異なるタイヤを混ぜて使用すると、安全走行に悪影響をおよぼしますのでおやめください。タイヤの指定サイズは、取扱説明書をご確認ください。

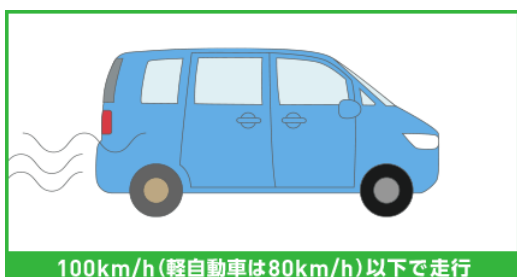


POINT 02

4輪同時に交換する。

4WD 車では、指定サイズであっても、前後で銘柄の異なるタイヤや同一銘柄であってもパターンの異なるタイヤを使用すると、タイヤの違いにより、ディファレンシャルなどに大きな負担がかかり、最悪の場合、発熱による火災の危険性があります。必ず、同一銘柄・パターン・サイズのタイヤで4輪同時に交換してください。

i (アイ)、i-MiEV (アイミーブ) のように、タイヤの指定サイズが前後輪で異なる車種があります。詳しくは取扱説明書をご確認ください。



POINT 03

応急用スペアタイヤを装着した時は、100km/h 以下*で走行する。

スペアタイヤはパンクしたタイヤを修理するまでに、一時的に使用するタイヤです。応急用スペアタイヤを装着した時は、100km/h 以下*のスピードで走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

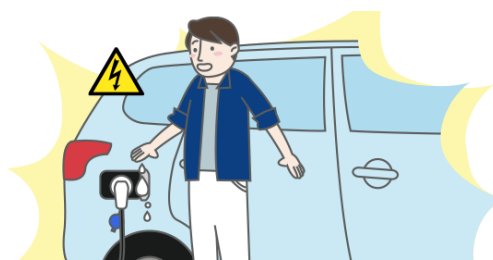
*軽自動車は 80km/h 以下。

点検・整備・取り扱い

[電気自動車・プラグインハイブリッドEV]

取り扱いを誤ると 感電などのおそれがある！

電気自動車やプラグインハイブリッドEVは、大きなバッテリーが搭載されているので、点検や整備、充電をする時には注意が必要！感電などの思わぬトラブルにつながるおそれがある。



高電圧部に触らない、充電しながら洗車しないなど 取り扱いの注意点を理解してください。

基本的にはガソリン車と同じように点検・整備を行います。駆動用バッテリーやモーターを搭載しているため、一部整備項目や注意事項が異なります。特長を理解し、感電ややけどなどに十分注意してください。

For Safety

安全のポイント



感電に注意

POINT 01

点検・整備時の感電ややけどに注意。

EVシステムは、起動中や起動後などに高温になることがあります。車両に貼り付けられているラベルにしたがい、高温と高電圧に注意してください。

高電圧を発生する部品の高電圧配線は、オレンジ色になっています。感電などの命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがありますので、高電圧を発生する部品ならびに高電圧配線の取り外しや分解などは、絶対に行わないでください。

また、駆動用バッテリーの高電圧を遮断するためのサービスプラグも絶対に触らないでください。主な高電圧部位は、あらかじめ取扱説明書でご確認ください。



充電中に洗車しない

POINT 02

充電しながら洗車しない。

火災や感電の原因となりますので、駆動用バッテリーを充電しながら洗車をしないでください。また、充電リッドが開いていると充電装置に水がかかり、火災、感電の原因となりますので、洗車をする前に、リッドおよび中ぶたを確実に閉め、パワースイッチで確実に電源をOFF状態にしてください。



クルマに触らない

POINT 03

万が一、事故が起きた時は むやみにクルマに触らない。

緊急処置が必要となるような事故が発生し、車両が安全であることを確認できない場合は、重大な傷害または死亡につながるおそれのある重度のやけどや感電のおそれがありますので、車両から離れ、販売会社に連絡してください。

また、駆動用バッテリー液の漏れ、車体や駆動用バッテリーの損傷は火災の原因となります。漏れや損傷などが見つかった時は、そのまま使用せず消防に通報してください。



充電器の取り扱いに注意

POINT 04

植込み型心臓ペースメーカー および植込み型除細動器など 医療用電気機器を使用している方へ。

[急速充電] 急速充電器を使用しない

電磁波が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがありますので、医療用電気機器を使用している方は、急速充電器を使用しないでください。また、急速充電器を設置している場所には、可能な限り近づかず、近づいてしまった場合は、立ち止まらず、すみやかに離れてください。急速充電器を操作する必要がある場合は、他の方をお願いしてください。

[普通充電] 影響の有無を確認する

普通充電が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがありますので、事前に、医療用電気機器製造業者などに、普通充電による影響の有無を確認してください。

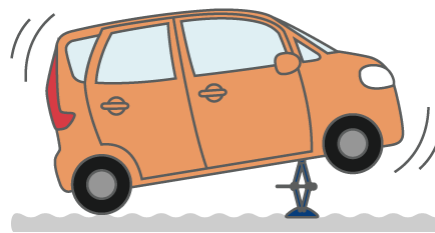
普通充電する時は、充電ガン、充電ケーブル、コントロールボックス、充電スタンドに、医療用電気機器の植込み部位を近づけないでください。また、車内にとどまらず、ものを取る時などに荷室を含めた車内に入り込まないでください。

点検・整備・取り扱い

[ジャッキアップ]

正しく使用しないと 重大な事故のおそれが！

凸凹路面ややわらかい路面でのジャッキアップやクルマの下にもぐる行為は絶対にダメ！ジャッキが倒れ、重大な事故につながるおそれが。

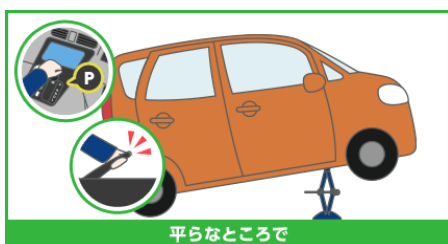


**ジャッキアップは安全な場所に停車しエンジンを止め
平坦で硬い場所で行ってください。**

ジャッキアップはタイヤが浮いた非常に不安定な状態です。エンジンを停止しないなど安全を十分確保しないままジャッキアップすると、ジャッキが倒れて、重大な傷害を受けるおそれがありますのでご注意ください。

For Safety

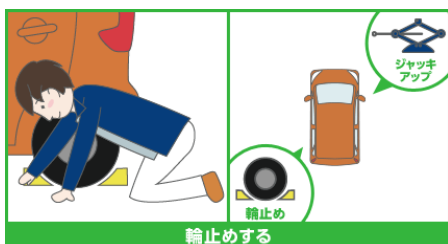
安全のポイント



POINT 01

安全な場所にきちんと駐車し、 エンジンを止めてから作業する。

ジャッキアップする時は、平坦で安全な硬い場所にクルマを止めてください。オートマチック車の場合はセクターレバーを「P」に入れ、エンジンを止めて駐車ブレーキを確実にかけてください。マニュアル車の場合はエンジンを止めシフトレバーを「R（リバース）」に入れ、駐車ブレーキを確実にかけてください。



POINT 02

必ず輪止めを使用する。

ジャッキアップするタイヤから一番遠いタイヤの前後に輪止めをしてクルマが動かないようにしてください。輪止めがない時は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できますが、事前に輪止めを準備しておくことで便利です。



POINT 03

ジャッキは指定位置に正しくかける。

ジャッキは必ず指定位置（ジャッキアップポイント）に正しくかけてください。ジャッキアップポイントを誤ると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れて、重大な傷害を受けるおそれがあります。指定位置（ジャッキアップポイント）は、取扱説明書をご確認ください。



POINT 04

作業中は周囲に注意。

作業中は周囲の安全に十分注意してください。また、クルマの下にもぐったり、クルマをゆすったりしないでください。ジャッキが倒れて、重大な傷害を受けるおそれがあります。重大事故の多くはクルマの下にもぐって作業をしている時に発生しています。

点検・整備・取り扱い

[電装品]

不適切な取り付けは火災のもと！

電装品の取り付けは正確ですか？取り付け方が誤っていたり、不完全な状態で接続されていると火災など思わぬトラブルに…。



電装品の取り付けは、電装品破損や火災を防ぐために販売会社にご相談ください。

オーディオなどの電装品は、取り付け方法が適切でないと、配線が車体に干渉し、ショートするなどして電装品が壊れたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

For Safety

安全のポイント



販売会社に相談する

POINT 01

電装品の取り付けには十分ご注意ください。

オーディオなど電装品は取り付け方法が適切でないと、火災など思わぬトラブルにつながるおそれがあります。電装品の取り付けについては販売会社にご相談ください。

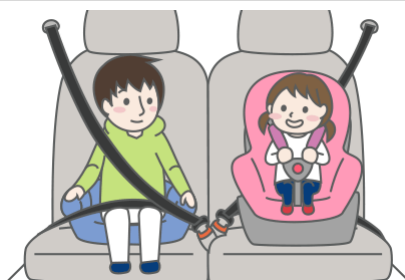
そうだったのか！
意外と知らない

クルマの安全ガイド

お子さまをのせるとき

車外に投げ出される可能性も！ チャイルドシートはしっかり固定を！

衝突時には、身体に体重の何十倍もの荷重がかかります。ひざ上抱っこでは、お子さまを支えきれず車外へ投げ出される可能性があります。



チャイルドシートを使用する際は、正しく装着してください。

チャイルドシートにきちんと座っていないと、急ブレーキなどによって体が投げ出されて、大変危険です。小さなお子さまを乗せる時は、チャイルドシートをお使いください。また、お子さまの体格にあったチャイルドシートを正しい位置に、しっかりと固定してください。

For Safety

安全のポイント



資料提供：JAF「チャイルドシート不使用の危険性」

POINT 01

お子さまを乗せる時は チャイルドシートを使用する。

ひざの上でお子さまを抱えていても、急ブレーキをかけた時や衝突した時などに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。また、シートベルト※は大人の体格に合わせて設計されているため、小さなお子さまが使用すると、急ブレーキや衝突時に飛び出してしまうたり、シートの下にすべり落ちたりするおそれがあります。

小さなお子さまを乗せる時は、チャイルドシートをお使いください。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの使用が義務付けられています。

※シートベルトの他、軽トラックのヘッドレストなども、大人の体格に合わせて設計されていますので、お子さまが使用する時には、ご注意ください。



体に合ったものを

チャイルドシートの使用目安

- 乳児用：～83cm
- 幼児用：76cm～100cm
- 学童用(ハイバックタイプ)：100cm～150cm
- 学童用(ブースタークッションタイプ)：125cm～150cm

POINT 02

チャイルドシートは 体に合ったものを取り付ける。

- ・チャイルドシートは、主に乳児用（ベビーシート）、幼児用（チャイルドシート）、学童用（ジュニアシート）の三種類があります。
- ・お子さまの体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- ・学童用（ジュニアシート）のお子さまのベルトは鎖骨にかけて首にかからないようにしてください。
- また、下のベルトはお腹にかけず腰の骨の下にかけてください。

※JAMA（一般社団法人 日本自動車工業会）のサイトでは、取付方法や注意事項などを詳しく説明しています。



チャイルドシート啓発



チャイルドシートご使用にあたって

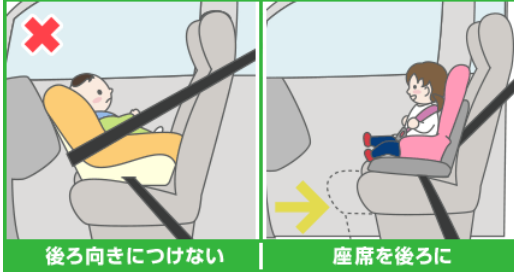


後席に装着

POINT 03

チャイルドシートは後部座席に装着する。

チャイルドシートは安全のために後席に装着してください。



後ろ向きにつけない

座席を後ろに

POINT 04

助手席には後ろ向きのチャイルドシートは絶対に取り付けない。

助手席に乳児用（ベビーシート）など、後ろ向き装着のチャイルドシートは、絶対に取り付けしないでください。

助手席 SRS エアバッグ装着車の場合、SRS エアバッグが膨らむ時に強い力が、後ろ向きチャイルドシートの上部にかかり、背もたれに押しつけられ、命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

やむをえず、助手席に前向きのチャイルドシートを取り付ける場合は、SRS エアバッグから遠ざけるため、助手席を一番後ろの位置にしてください。



しっかりと固定する

POINT 05

チャイルドシートはしっかりと固定する。

チャイルドシートの種類によって取り付け方が異なるため、チャイルドシートの取扱説明書に従って、装着してください。

装着後は、チャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

お子さまをのせるとき

[チャイルドシート固定機構]

シートベルトで窒息のおそれが！

シートベルトが体に巻きつき、外そうとしても外れない！大惨事になる前に、チャイルドシート固定機構（ALR）付シートベルトの機能を理解しましょう。



お子さまにシートベルトでは絶対遊ばせないでください。

チャイルドシート固定機構が作動した場合、ベルトを引き出すことができなくなり、締め付けられたままになり窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトの特長を理解し取り扱いには注意してください。

For Safety

安全のポイント



全部引き出すと



戻すことはできるが



引き出せない

POINT 01

チャイルドシート固定機構（ALR）付シートベルトを理解する。

ALR付シートベルトは、チャイルドシートを固定する際に、シートベルトを最後まで引き出し、任意の長さにベルトを巻き戻すとその位置でロックしゆるまなくなるシートベルトです。シートベルトを最後まで引き出した場合には、完全に巻き戻さないとベルトの引き出しができなくなります。

この機能は、一部車種の後部座席に装備されていますので、あらかじめ取扱説明書などでシートベルトの仕様を確認してください。



シートベルトを切る

POINT 02

お子さまをシートベルトで遊ばせない。

お子さまがベルトを体に巻き付けたりして遊んでいてチャイルドシート固定機構が作動した場合、ベルトを引き出すことができなくなり、締め付けられたままになり窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。

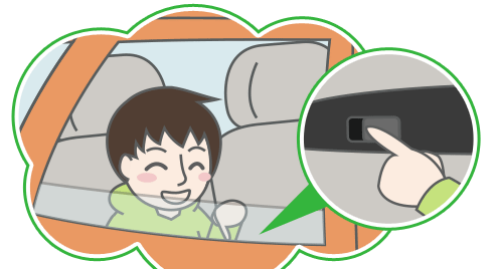
絶対にお子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万が一チャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトが外せなくなった時は、専用のカッター、はさみなどでベルトを切断してください。

お子さまをのせるとき

お子さまのウィンドウ、 ドア操作は危険！ ロックスイッチを活用！

お子さまにパワーウィンドウや電動スライドドアを操作させていませんか？
お子さまが操作すると重大な事故につながるおそれがあります。



お子さまにパワーウィンドウや電動スライドドアなどの 操作をさせないでください。

パワーウィンドウやスライドドアの開閉は、手や顔などをはさむなど、重大な事故につながるおそれがあります。お子さまが操作しないよう、パワーウィンドウのロックスイッチや後席ドアのチャイルドプロテクションなどを使用してください。

For Safety

安全のポイント



ONにする

POINT 01

パワーウィンドウの ロックスイッチはONにする。

開閉時は大人が操作し、お子さまに操作させないでください。また、操作する時は、お子さまが窓やドアから離れていることを確認してください。
パワーウィンドウのロックスイッチ付きのクルマは、お子さまが操作できないようにロックスイッチをONにしてください。お子さまが誤った操作をすると、手や顔をはさむなど、重大な事故につながるおそれがあります。



LOCKにする

POINT 02

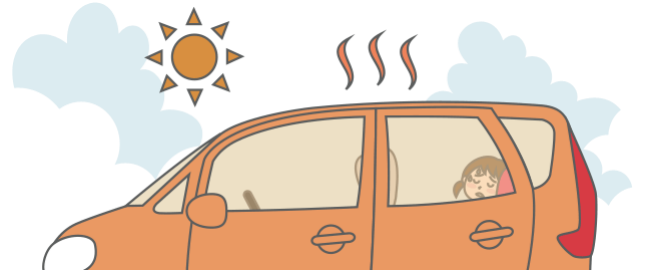
チャイルドプロテクションをLOCKにする。

チャイルドプロテクションレバーは、LOCK（施錠側）にしてドアを開めると、車内からはドアハンドルを引いてもドアが開けられなくなります。安全のためにお子さまを後席に乗せる時には、LOCK（施錠側）にしてください。
走行中にお子さまがドアハンドルを引いて誤ってドアを開けてしまうと、車外に投げ出されるなど、命にかかわる重大な事故になるおそれがあります。

お子さまをのせるとき

お子さまを車内に残さないで！ 熱中症など命の危険が！

「ちょっとだから」とお子さまを車内に残して離れていませんか？クルマの中は高温になりやすく熱中症になったり、お子さまが装備を触って事故につながるおそれがあります。



お子さまを車内に残してクルマから離れないでください。

炎天下での車内は高温になり、熱中症などになるおそれがあります。また、お子さまのいたずらにより、車内の装備を触ったりすると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。クルマを離れる時は必ず、お子さまと一緒に降りてください。

For Safety

安全のポイント



一緒に降りる

POINT 01

お子さまの熱中症に注意！

クルマから離れる時は、必ずお子さまも一緒に連れて降りてください。車内は高温になりやすく、特に真夏のインストルメントパネル付近は80℃にもなります。ちょっとのつもりでも、お子さまを残してクルマを離れると、熱中症など、命にかかわる重大な事故を引き起こすおそれがあります。



操作させない

POINT 02

お子さまに操作させない。

車内にお子さまだけを残すと、駐車ブレーキやパワーウィンドウ、シガーライターなどを触ったり、遊んだりして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。特にチャイルドシート固定機構付（ALR）シートベルトの場合、シートベルトで遊んでいると固定機構が作動して、シートベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。また、キーを車内に残したまま、お子さまが誤ってドアをロックしてしまうと、外から開けられず、クルマの中に閉じ込められるおそれがあります。